

中村かずひこ通信

【発行元】中村かずひこと未来をつくる会 〒321-4362 真岡市熊倉町3423-4 Tel. 0285-82-6285 vol.14
ホームページ <http://www.nakamurakazuhiko.com> e-mail tonpei@i-berry.ne.jp

今回は、アンケート用はがきを掲載しました。(詳しくは裏面に)



一般質問が実現します!

平成19年度から

『病後児保育』がスタート!!



未就学の子どもが病気回復期のため保育所等での集団生活が難しく、さらに、保護者が仕事・病気・出産・冠婚葬祭等の理由により家庭での保育が出来ない時、子どもを一時的に預かる『病後児保育』が、平成19年度からスタートすることになりました。

栃木県内では、すでに8市1町で行われていますが、真岡市では初の取り組みとなります。

事業計画

実施する施設	(仮称)西真岡第二保育園 (平成19年4月伊勢崎地区に開設予定)
対象者	市内在住の乳幼児(上記保育園に入所する、しないに関わらず)
利用日と利用定員	月曜日～土曜日 4人/1日



※実現に向けてご尽力されている関係各位に心から感謝申し上げます。

9月定例議会報告

期間 9/1 ▶ 9/27

9月議会一般質問

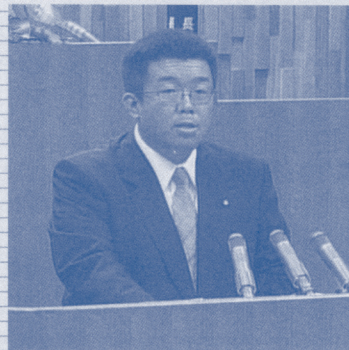
9月定例議会の質疑・一般質問が11日(月)、12日(火)の2日間にわたって行われました。

中村は12日の2人目に登壇し、

1. 少子化対策、子育て支援策について
2. 教育関係の諸課題について
3. スポーツ振興策について

の計3件について一般質問を行いました。(中面に関連記事)

今年5月から中村のホームページ上にて『安心して子どもを産み、育てられる社会～真岡市は今、何をすべきか～』と題して、皆さまからのご意見を募集してきました。今回の質問では、寄せられた声を参考にしながら、子育て環境(教育関係を含め)の整備をメインテーマにしました。



平成17年度 決算特別委員会

また中村は、9月25日(月)に行われた「平成17年度決算特別委員会」でも質疑を行い、執行部の考えをたずねました。

中村が行った質疑の内容

1. 「農業振興費」について
(集落推進交付金、転作確認交付金等の問題について)
2. 「不登校対策費」について
(不登校の児童生徒、ライプリー教室の現状について)
3. 「社会教育総務費」について
(子ども議会の運営上の課題について)
4. 「自然教育センター費」について
(多目的広場のサッカー場としての使用について)

夢をカタチにするために

— 建議要望を市長に提出 —

9月27日(水)、中村が所属する会派「新世紀・公明クラブ」では、平成19年度の市政に対する建議要望を市長に提出しました。

なお今回、中村が出した要望では以下のようなものが新たに盛り込まれました。

【総務関係】	・広告事業及びネーミングライツの早期導入
【文教関係】	・地域の防犯ボランティアとスクールガードの連携強化 ・学校図書館の充実(ボランティアの積極的活用等) ・特別支援教育への適正な対策
【福祉関係】	・ひまわり園の母子分離通園日の増加
【環境関係】	・感染性医療廃棄物処理場建設反対へ向けた県に対する積極的なアプローチ
【商工関係】	・ベンチャー企業の育成と支援(拠点施設整備、情報提供等)



市民と市政のかけ橋になりたい!

☆お気軽にお声をかけて下さい。

☆お友達との井戸端会議、勉強会等。2〜3人でも結構です。どこへもお伺いいたします。

☆あなたのアイデアを市政にいかしたい!

☆お気づきの点がございましたら、どんな小さなことでも結構です。ぜひご意見を!

「見逃した!」という方に
バックナンバーをお送りします

これまで「未来を作る会」では、毎回定例議会終了時に、「中村かずひこ通信」を発行して来ましたが、1〜13号までを見逃された方は、お気軽にご連絡下さい。

こちらからお送りさせていただきます。

次回発行予定日

1月14日(日)

次回の「中村かずひこ通信」は

発行予定です。新聞の折り込みチラシをご覧ください。

中村かずひと議会レポート



質問:中村かずひと

9月定例議会

答弁: 福田武集 市長
佐藤 務 教育長
手塚 仁 教育次長

少子化対策、子育て支援策 について



質問 真岡市では昨年度から、**不妊治療に対する助成事業**を実施している。しかし、**第1子に対する不妊治療に限定**されており、第2子以降については対象外となっている。第1子誕生後、長期間子どもが生まれず、多額の費用を自己負担しながら不妊治療を続けている、あるいは、第2子の出産を半ば諦めている夫婦が決して少なくないことを考えると、**対象の枠を広げてよいのではないか。**

答弁 不妊治療の助成事業については、県内14市中10市で実施されており、そのうち**第2子以降も助成しているのは5市**ある。なお、5市の申請状況を見ると、**第2子以降の申請は、第1子と比較して1割に満たない。**真岡市の助成制度は、人工授精も対象としていること、所得制限を設けていないこと、助成額は4年間で60万円である等、県内では高水準にあることから、**当面は第1子の誕生を願う夫婦を対象としていきたい。**

質問 **子どもの医療費助成**は、今年度から県の方針により、対象が小学3年生まで引き上げられた。そうした中、**県内他市町の状況**を見ると、県が設定した内容に上乘せる形で、**独自に充実化を図っている所が増えている。**芳賀町のように、全ての子どもについて、中学3年生まで対象に出来れば理想であるが、財政面を考慮すると難しいことかも知れない。では、**子どもの数に応じて対象を引き上げることは出来ないものか**(例:子どもが2人いる家庭→小6まで 3人以上いる家庭→中3まで)。あるいは、**入院が伴った治療に限り、中学3年生まで対象とすることも1つの手法**と思うが。

答弁 **子どもの人数により助成対象年齢を引き上げた**場合、出生、死亡、転入、転出等による人数の変化への対応を考えると、**助成対象者の把握が困難**である。また、**入院医療費の対象年齢引き上げ**については、今年度から対象年齢を小学3年生に引き上げたばかりで、さらなる独自の上乗せは**財政負担の増加**につながる。**当面は現行の方法で実施**していきたい。

質問 真岡市では**来年度から「病後児保育」**のサービスが導入されることになった。**1日の利用定員は他の自治体同様4名**とのことである。しかし今後、企業の誘致を進めることを考えると、人口の動向に合わせて**利用定員を拡充する余地は残しておくべきではないか。**また、病気療養中の子どもを対象にした**「病児保育」**について、**今後導入する考えはあるのか。**

答弁 **「病後児保育」**については、来年4月に伊勢崎地区内に開園予定の**「(仮称)西真岡第二保育園」**で実施される。定員を4名としているが、**需要が多くなった場合については、今後の利用状況を見ながら適切に対応したい。**また**「病児保育」**については、症状の急変時に対応するため、医療機関に併設した施設で行うことが必要となる等の難しい課題がある。適切な把握に努めるとともに、**課題解決の研究**をしていきたい。

質問 **北海道帯広市**では今年7月から、育児に理解のある市内企業を**「子育て応援事業所」**として登録する取り組みをスタートさせた。これは、登録企業の**従業員が育児休暇を取得した場合、市が奨励金**を出す。あるいは、地元金融機関の協力の下、**登録企業に対して貸付金の金利優遇**を行う等のメニューが用意されている。真岡市でも、こうした取り組みを参考にしながら、市内企業に対して子育て支援策を実施できれば、市全体で子育てを応援する起爆剤になると考えるが。

答弁 平成17年3月に**「真岡市次世代育成支援対策行動計画」**を策定した。この中で、**企業の役割**として、子育て期間中の**短時間勤務**や**フレックスタイム制**の導入、育児休業や**再雇用の制度**導入等を進めることとしている。市としては、企業に対して**広報啓発活動**の実施を検討しているところである。したがって、**企業への支援策については考えていない。**

教育関係の諸課題 について



質問 市内の小・中学校で、**学校図書館の運営にボランティアの協力**を得る**取り組み**が見られるようになった。今後、市としてはどのように展開させていく考えなのか。また、現在のボランティアは活動が図書の整理等に限定されている。**「読書推進アドバイザー」**としての**役割も担って**いければ、**最も理想の姿に近づく**と思うが。

答弁 児童生徒の**読書指導**については、**全小中学校を一律に考えるのではなく、それぞれの学校の状況に応じて実施**していく。その中で、各学校における学校図書館との連携や、現在市が推進している**「図書館管理システム」**の実施状況を考慮しながら、ボランティアの活用もお願いしていきたいと考えている。

質問 **スクールガード**を依頼された市民の中で、**役割についての考え方が食い違い**、結果として善意がないがしろになってしまうケースがしばしば見られる。
(1)そもそも**市では、スクールガードの活動はどのようなものと定義**しているのか。
(2)各地区で行われている**「防犯ボランティア」**と**情報を共有化すべき時期**にきているのではないかと。
(3)スクールガードの担当部署が教育委員会、防犯ボランティアは総務課となっているが、**施策の整合性とキメ細やかな対応**を図るため、**担当部署を一元化**すべきではないのか。

答弁 (1)市教委としては**スクールガードの活動**について、**地域内の通学路や公園等を中心に巡回**することを想定している。また、活動の**時間帯**については、登下校時が効果的と言われていたが、散歩や買い物に合わせて巡回する場合も十分に**犯罪の抑止効果が期待**できるので、**弾力的に実施**していただきたい。
(2)各地区の**防犯ボランティアの活動内容をまとめ、各学校やスクールガード等に情報提供**を行い、共通理解を深めるための具体的な取り組みを行っていただきたい。
(3)各地区の防犯ボランティアは、活動内容が広範囲であるため、現時点において**担当部署の一元化は難しい。**

スポーツ振興策 について



質問 スケートセンターについては、平成14年度の事務事業評価で**廃止の方向性**が示されているが、**その後どのような取り組みをしていく考えなのか。**

(1) 子ども達がスポーツをする環境の整備…様々な競技において、**社会人チームで活躍している選手**が多数いる真岡市の特色を活かして、現役はもとより引退した選手を巻き込んで、**子ども達のスポーツ指導にあたってもらえれば**と考えるが。
(2) スケートセンターの跡地利用…市民から要望の声がある**フットサル場、あるいはスケートボード場としての活用**を検討してはどうか。

答弁 (1) 現在、小学生を対象としたスポーツ教室は、バドミントン、体操、わんぱく親子教室等がある。また、**真岡市体育協会各競技専門部に依頼し、優れた指導者を確保**している。今後も、各種スポーツ教室の開設、スポーツ少年団・クラブの育成を推進し、「スポーツ好きで、スポーツを楽しめる子ども」を育てていきたい。
(2) **フットサル場、社交ダンス場、卓球場等、市民からの要望がある**ので、他の体育施設との調整を図りながら有効に活用したい。

質問 残業時間や休日出勤が増加している中で、**真岡市の体育施設は夜9時に閉館**してしまうため、スポーツを十分に楽しむことが出来ない。夜間も使用可能な公共施設が周囲に集まっている**総合体育館や武道体育館に限定し、1年程度試験的に夜間の使用時間延長**を図り、その結果を踏まえて本格的導入を検討してはどうか。

答弁 確かに一部利用者については、来館時間が遅くなり、スポーツを楽しむ十分な時間が取れない方もいると思うが、総合体育館周辺については騒音等配慮が必要な環境であり、利用者には**現行の時間の中で有効に使っていただきたい。**

再質問



不妊治療の助成事業について

質問 第2子以降の不妊治療に対して助成を行ってきた県内他市の状況を見ると、第1子の女性と比べて1割程度の申請と言うことであった。裏を返せば、**高額な予算をかけなくても、第2子以降の不妊治療を助成することは十分可能**ということではないのか。

答弁 4年間という長期間にわたって助成をしているのは本市だけである。また、始めてから1年を経過したばかりなので、**第2子以降まで助成するかについて検討するのは**(初期の不妊治療助成が区切りを迎える)**4年後でもいいのではないかと**考えている。

子どもの医療費助成について

質問 市長の答弁を聞いていて、**どうしても見えてこないのが「どこに軸足を置いて子育て支援策を考えているのか」**ということである。
A. 子育て支援策全体の中で、医療費助成の優先順位はさほど高くないのか
B. 医療費助成の優先順位は高いが、他の自治体とは別の切り口から充実化を考えているのか
C. 単に財政的な面から出来ないと考えているのか

答弁 **子どもの医療費については今年度拡充されたばかり**であり、(市独自により拡充を図るかどうか)**検討するのはこれからだと**考えている。なお、子育て支援策に対する予算については、他市に比べて劣っているとは思えない。また、独自の取り組みとして「三つ子の魂育成」等を行っている。

体育施設の夜間使用時間延長について

質問 現時点では困難であるということであった。しかし、**1年程度試験的に9時30分あるいは45分まで延長し、その後、利用者、周辺住民双方の意見を集めれば、最適なサービスを提供できる**と思うが、それすらも実施する考えはないのか。

答弁 総合体育館周辺については、夜間の騒音等配慮が必要な環境であり、利用者には**現行の時間の中で有効に使っていただきたい。**

要望

少子化対策、子育て支援策について

少子化対策や子育て支援策はそれ相応の財源が必要となるが、**無理難題を言っているつもりはない**。今回の質問は、6月議会の一般質問と連結させた話として聞いたつもりである。

広告事業を実施したり、**真岡鉄道やコンピュータ・カレッジに経営の自立化**を促したりするだけでも、**5000~8000万円の財源は確保**できるものと思われる。

今後、若い世代を定住させようとするならば、少子化対策や子育て支援策をより充実させていくことは必要不可欠になる。諸処の施策について前向きに検討されるよう要望したい。



郵便はがき

3 2 1 4 3 9 0

料金受取人払

真岡局承認

21

差出有効期間
平成19年10月31日まで
(切手不要)

真岡市熊倉町3423-4

真岡市議会議員

中村かずひこ行



3 2 1 4 3 9 0

5

市政アンケート

お名前	
ご住所	(〒 -)
お電話	
Eメール	

アンケートにご協力下さい!

「真岡市政への提案」「生活していて感じ身近な疑問」

どんなテーマでも結構です。皆様の声をお聞かせ下さい。

右のハガキを書いて

切り取って

ポストへ投函

(投函する際、切手は不要です。)

